

まちかね Vol.6 ミュージアム

発行 / 2023.10.13

発行者 / 大阪大学総合学術博物館

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町 1-20

博物館ホームページ URL

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>



館長就任ご挨拶

大阪大学総合学術博物館は、2022年に創立20周年を迎えました。これまで私たち博物館は、大阪大学にある二つの登録有形文化財を拠点にして活動してきました。一つは大阪大学会館（旧イ号館、1928年竣工）、もう一つが待兼山修学館（旧医療技術短期大学校舎、1931年竣工）です。そしてこの二つを結ぶのが、『枕草子』にも登場する貴重な里山「待兼山」の遊歩道です。私たちは、これら二つの登録有形文化財と歴史ある待兼山の自然とともに多様な活動を展開して来ました。しかし、本博物館は人間で言えばようやく成人を迎えたばかりであり、今後はさらに成長し、大学博物館ならではの独自の役割を担うことが求められることでしょう。

私たちに課せられた使命は、大阪大学の自然科学系部局、医歯薬系部局、人文社会科学系部局の学術標本や研究資料を収集、保管し、それらを一元的に管理することで教育研究や社会貢献に役立てることにあります。創立当初、学内には160万点を超える資料があったとのことですが、現在はおそらくその数をはるかに超える標本や資料が蓄積されていることでしょう。今後もこの第一の使命を全力で果たして行く所存です。

大阪大学総合学術博物館の使命はそれに限りません。大学の研究力や教育力を向上させることは言うまでもないことですが、私たちは大学の教育研究と社会とを繋ぐ架け橋になることをもう一つの使命としています。大阪大学は江戸時代の町人社会の中から生まれた懐徳堂や適塾を精神的源流とし、90年以上前に社会の要望を受け、社会の力を借りて誕生した第6番目の帝国大学でした。爾来、大阪大学は社会との繋がりをとりわけ大切にして来ました。私たちは大学博物館としてのユニークな活動を通して、これからも社会に向けて大学を開く「窓」、さらには社会と大学との連携のための「結節点」となることを目指します。

現代社会は博物館創立時の約20年前には想像もしなかったような事態に直面しており、社会の構造も人々の



意識も大きく変わって来ました。電子通信技術が一層進歩しデジタル空間が地球上を覆うようになり、巨大な災害や戦争が私たちの生活を瞬時に破壊する悲惨な事態も経験しました。社会はグローバル化し、多文化共生の世界に向けての努力も必須です。さらには少子高齢化が一層進み、私たち個々の人生のイメージも変容を迫られています。そのような複雑で一筋縄では行かなくなった現代の世界に向き合い、社会と大学との連携をより柔軟、かつ総合的に展開するため、2023年度に大阪大学ミュージアム・リンクスを創設しました。本学の社会学連携を推進する総合学術博物館、適塾記念センター、アーカイブズの3組織の専任教員がミュージアム・リンクスに結集し、このミュージアム・リンクスに集う、幅広い専門領域をカバーするメンバーとともに、大学博物館として、複雑化する現代社会と大阪大学とを繋ぐ架け橋であり続けたいと思います。

皆様には、大学知が集積されたこの空間を存分にお楽しみいただき、そしてまた忌憚のないご意見を是非お願い致します。私たちは20歳を迎えたばかりのまだまだ未熟な博物館ですが、頂戴したご意見に真摯に向き合い、より良い大学博物館を目指して参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

大阪大学総合学術博物館館長 河原 源太

展覧会のお知らせ

第18回特別展「豊中市所蔵 京・大阪 日本絵画の精華～花鳥画の名品から俳画の珍品まで～」



大阪府の北部に位置する豊中市は、江戸時代から現代に至るまで、数多くの文化人・芸術家が集う文化都市として発展してきました。この展覧会では、豊中市にまとまって所蔵される約250点の日本絵画のうち、イチ推しの優品約50点を展示します。

大阪画壇を代表する月岡雪^{つきおかせつてい}、京都で活躍し池田滞中に改名し新しい画境を開いた四条派の祖・呉春^{ごしゅん}といった近世の大物画家から、1924年に大阪美術学校を設立し晩年を豊中市で過ごした矢野橋村^{やのきょうそん}など、近代のアートシーンを牽引した画家の優品が揃います。また俳句革新運動^{かわひがしへきごとう}で知られる河東碧梧桐をはじめ国学者や劇作家ら職業画家ではない人々の妙趣ある作品も見所です。

これらの作品は、2021年に大阪大学総合学術博物館が豊中市より寄託を受け、博物館とともに本学人文学研究科の教員・学生が調査研究を進め、大阪画壇の画家によるもの、詩文を伴うもの、軽妙で洒落た趣のものを多く含む特徴が明らかになりました。

本年4月、大阪大学中之島芸術センターがオープンし、美術作品も展示できる展示室が開室したことにより、本展を大阪大学と豊中市の2会場で開催する運びとなりました。大阪大学はこれからも地域と連携した研究に力を入れ、歴史豊かな豊中市および府内の美術作品について積極的に発掘し再評価に努めていきます。心おどる作品の数々をお楽しみください。

会期：2023年10月14日（土）～
11月19日（日）

（前期）10月14日（土）～10月29日（日）

（後期）11月1日（水）～11月19日（日）

■中之島会場

大阪大学中之島芸術センター 展示室（中之島センター4階）

開館時間：10:30～17:00

※月曜・祝日及び10月31日（火）休室

ホームページ：https://www.art.osaka-u.ac.jp

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4-3-53 大阪大



学中之島センター4階

・京阪中之島線 中之島駅より徒歩約5分

・阪神本線 福島駅より徒歩約9分

・JR東西線 新福島駅より徒歩約9分

■豊中会場

豊中市立文化芸術センター 特別展示室

開館時間：9:00～20:00

※月曜及び10月31日（火）休室

ホームページ：https://www.toyonaka-hall.jp

〒561-0802 大阪府豊中市曾根東町3-7-2

・阪急宝塚線 曾根駅より徒歩約5分

主催：大阪大学総合学術博物館、大阪大学中之島芸術センター、豊中市

協力：大阪大学大学院人文学研究科

第25回企画展「ちんどん屋 宣伝・広告に生きるハブ（集積／中継／交流）芸能」

ちんどん屋は、扮装をし、歌舞音曲や口上などを用いて、各種の宣伝をすることを生業としています。

ちんどん屋が広告の際に用いる芸は、音楽に限らず、語り芸の口調や伝統的な芸能の仕草、時と場合に合わせた衣装など、多種多様です。それらの芸は、過去のちんどん屋から受け継いだものに加え、新しい芸も取り入れるなど、時空を超えた蓄積があります。人々の耳目を集めるため、あるいは気を引くために活用される芸は、ちんどん屋を軸として、芸能の領域を超えて交わり、過去の芸を未来へとつないでいるといえるでしょう。

ちんどん屋の芸は各種芸能の時代や種類を問わず集め、交わせ、繋ぐ、ハブ的な芸といえるのではないのでしょうか。現代においても日本各地や海外などで活躍しているちんどん屋は、私たちの郷愁の中だけでなく生活の中に生きています。

本展覧会では、ハブ芸能としてのちんどん屋の歴史や芸能、交流やコミュニケーション方法など様々な魅力を紹介します。

会期：2023年10月25日（水）～
2024年2月17日（土）

開館時間：10:30～17:00（入館は16:30まで）

（休館日：日曜・祝日・年末年始）

入場料：無料

会場：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館3階

主催：大阪大学総合学術博物館・大阪大学中之島芸術センター

協力：大阪大学大学院人文学研究科

（有）東西屋 ちんどん通信社



イベント報告

第24回企画展 石濱純太郎展 なにわ町人学者の東洋学



いしはまじゅんたろう
石濱純太郎(1888〈明治21〉～1968〈昭和43〉、
関西大学名誉教授)は大阪が生んだ大正から昭和戦後期
に活動した東洋学者です。自他ともに認める“町人学者”
として、敦煌文献や未解読だった西夏文字、懷徳堂の富
永仲基の学問を研究しました。膨大な研究資料のコレク
ションと彼のまわりに集う人々の輪「石濱サロン」は、生
前から讃嘆されていました。

また彼は大阪大学の前身校でもある大阪外国語学校・
大阪外国語大学、(旧制)大阪高等学校で学び教え、さら
に重建懷徳堂を活動の場とするなど、大阪大学とも縁が
深い学者です。没後、蔵書などが大阪外国語大学に「石
濱文庫」として入り、現在は大阪大学附属図書館に保管
されています。和書・漢籍・欧米諸言語の図書・雑誌だ
けでも4万冊以上にのぼりますが、そのほかにも石碑から
採った拓本や彼の交友の広さを示す書簡などの学術資料
も膨大な点数があります。現在も整理・研究が進められ、
新たな発見があいついでいます。

本展覧会では、石濱純太郎が収集した資料から、漢字
の変遷とアジアの文字・言語の多彩さ、また彼をとりまく
学芸ネットワークについて、展示を通じて紹介しました。
会期：2023年6月3日(土)～7月29日(土)

10時30分～17時(入館は16時30分まで)
会場：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館
主催：大阪大学総合学術博物館、大阪大学大学院人文
学研究科
協力：大阪大学附属図書館、大阪大学外
国語学部、大阪大学文学部、一般
財団法人 懷徳堂記念会



2023 体験！こどもミュージアム@大阪大学

子どもたちにさまざまな科学の分野に対する興味や関
心を持ってもらうことを目的に、小学校3年生から6年
生を対象に開催しました。

①超低温の世界～いろんなものを冷やしてみよう～
8月22日(火) 14:00～15:30

【講師】辻野 博文(ミュージアム・リンクス 准教授)

②スーパーボールロケット・信号反応

8月23日(水)

14:00～15:30

【講師】十河 秀敏

(箕面自由学園・教
育顧問)



③偏光で調べる光のふしぎ

8月24日(木) 14:00～15:30

【講師】宮久保 圭祐(ミュージアム・リンクス 准教授)

対 象：小学 3～6 年生

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
3階セミナー室

主 催：大阪大学総合学術博物館・株式会社新興出版社
啓林館

協 力：大阪大学 21 世紀懷徳堂

後 援：豊中市教育委員会、池田市教育委
員会、箕面市教育委員会、大阪市
教育委員会



2023 年度 大阪大学美術部 夏部展

— 「境」 —

本展覧会では、「境：Boundary」というテーマを設
定した上で、「曖昧になる境」、「崩壊する境」、「創造す
る境」、「異境」という四つの観点から、部員が想起する
「境」のイメージを込め、制作した作品を展示しました。

会 場：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館 3 階
多目的室

会 期：2023 年 8 月 28 日(月)～9 月 4 日(月)

※9月3日(日)は休館

シンポジウム「“大阪的”って何？ 水辺から 考えるアート・大阪・大阪暮らし」

井上章一さんの著『大阪的「おもしろおばはん」は、
こうしてつくられた』(幻冬舎新書 2018 年)が提起し
た「大阪文化の視点」を端緒に、上方落語をはじめとし
た芸能・文化・美術感に思いを馳せつつ、「コミュニティ
を旅するように」シンポジウムを企画しました。

■開催日時

2023 年 9 月 9 日(土) 13:00～16:30 (12:30 開場)

■プログラム

【1】基調講演『大阪的 - 意匠論』

井上章一(国際日本文化研究センター 所長)

【2】「おおさか」の水辺・過去～現在～未来

①浪花百景…「幕末の水辺に迷い込む」

橋爪節也 (大阪大学 名誉教授)

波瀬山祥子(大阪大学総合学術博物館 研究支援推進員)

②変化する水辺 明治・大正・昭和

船越幹央 (大阪大学総合学術博物館 副館長)

【3】パネルディスカッション

『コミュニティを旅するように』

井上章一／笑福亭仁智(公益社団法人 上方落語協会 会長)

橋爪節也／船越幹央／波瀬山祥子 (司会・進行)

堀久仁子 ((一財)大阪市コミュニティ協会 都市コミュニティ研究室 室長代理)

主催：大阪大学総合学術博物館・(一財) 大阪市コミュニティ協会

共催：(公社) 上方落語協会

第4回兼任教員コラム

博物館は各研究科の先生方に兼任教員をして頂いています。このコーナーでは兼任教員の方の活動をご紹介します。

藤岡 穰 (ふじおか ゆたか)

人文学研究科芸術学専攻 教授

大阪市立美術館の学芸員を経て、大阪大学に助教授として着任したのは1999年だった。総合学術博物館構想が具体化したのはそれから間もなくで、私にとっては上司とも言える美術史研究室の肥塚隆教授(故人)が博物館に移籍し、初代の館長となられた。学芸員の経験があったことから、肥塚教授からは折に触れて博物館開設の準備についてお話を聞く機会があり、また開設当初から今にいたるまで兼任教員に名を連ねている次第である。

博物館については、肥塚教授の後任の方にも代々美術史の教員を兼務していただいている。その関係で美術史の学生が博物館の業務をお手伝いさせていただく機会は少なくなく、またサイエンスカフェや子ども向けワークショップの講師を務めさせていただくこともしばしばある。ただし、私自身が博物館のお役に立つことはあまりなく、唯一とも言えるのが2015年に開催した第19回企画展「金銅仏きらきらしーいにしへの技にせまる」とそれともなう国際シンポジウム「金銅仏の制作技法の謎にせまる」の企画、開催である。同展は、私自身が

研究代表者であった基盤研究(A)「5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究」の成果の一端をしめすアウトリーチ活動とも言えるもので、東京藝術大学、大阪市立美術館、逸翁美術館、白鶴美術館、妙傳寺から約30点の金銅仏を借用し、さらに金銅仏の鑄造模型やレプリカ、研究成果をしめすパネル展示によって構成したものであった。当時研究室に在籍していた学生たちとともに、展示プランを練り、科研の研究報告書としてカタログを作成し、キャプションやパネルを手作りしたことが懐かしい。また、大阪大学と箕面市の連携による「まちのラジオ」でも展覧会をご紹介いただく機会も得た(写真はこの時のもの)。

私は、主に科研の研究プロジェクトを進めるにあたり、2009年以来、韓国国立中央博物館との共同研究を進めてきたが、特に2013年以降は阪大総合学術博物館(関係教員は私)と中央博物館との学術交流協定をベースにさせていただいている。考えて見ると、兼任教員として役に立つよりも、むしろ利用させていただいているのかも知れない。この場を借りて感謝申し上げます。



編集後記

本号の編集を担当いたしました豊田です。本年は4年ぶりに、「体験！こどもミュージアム@大阪大学」や「大阪大学美術部 夏部展」を制限なしで開催することができました。久しぶりの開催で、以前の開催方法や手順を忘れていた部分もありましたが、なんとか無事に開催することができましたこと、皆様に感謝いたします。

大阪大学総合学術博物館ニューズレター

まちなかミュージアム

発行日 2023年10月13日

編集発行 大阪大学総合学術博物館

グローバル情報委員会

〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町1-20

大阪大学総合学術博物館 事務室

Tel : 06-6850-6284

<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/>